



外国文献紹介

心臓全体を一心拍で撮影可能かつ高分解能のCT装置を用いて心拍数の高い患者に対して実施した冠動脈CTアンギオグラフィの診断能について

Andreini D et al : Diagnostic performance of coronary CT angiography carried out with a novel whole-heart coverage high-definition CT scanner in patients with high heart rate. Int J Cardiol 257 : 325-331, 2018

筆者らは、冠動脈疾患が疑われた202例に対して、広範囲撮影可能かつ高分解能のCT装置による検査を行ったが、この中の86例について6カ月以内にさらにカテーテルを用いた冠動脈造影検査が実施された。心拍数80以上の群（グループ1）40例と65以下の群（グループ2）46例について、冠動脈CTアンギオグラフィ（CCTA）の診断能を検討した。その結果、両グループともに高画質の画像が得られ、50%を超える狭窄の検出におけるCCTAの感度は、セグメント単位の解析で95.2%、特異度は98.9%と高値を示した。そして、広範囲撮影可能かつ高分解能のCT装置を用いることにより、心拍数の高い症例においても、高画質の画像が得られ、冠動脈病変において高い診断能を得ることが可能であると述べている。

瀬戸一彦